

メッセージアウトライン

イザヤ9:1~2、6~7 ルカ2:1~20「やみの中を歩んでいた民は大きな光を見た」

イザヤ書9章 イザヤはBC8世紀の預言者

[1-2]「しかし、苦しみのあった所に、やみがなくなる。先にはゼブルンの地とナフタリの地は、はずかしめを受けたが、後には海沿いの道、ヨルダン川のかなた、異邦人のガリラヤは光栄を受けた。やみの中を歩んでいた民は、大きな光を見た。死の陰の地に住んでいた者たちの上に光が照った」

「ゼブルンの地とナフタリの地」…北王国イスラエルを構成していた地。新約時代にはガリラヤと呼ばれる。

「はずかしめを受けた」…アッシリヤに滅ぼされ、その民は捕囚としてアッシリヤへ連れ去られ、他国の民が住むようになってイスラエル人との混血の民となり異邦人のガリラヤと呼ばれるようになった。しかし、その異邦人のガリラヤ、やみの中を歩んでいた民が光栄を受ける時が来た。イエスは預言のごとくユダヤのベツレヘムでお生まれになったが、ガリラヤのナザレで育たれ、ガリラヤから福音を宣べ伝え始められた。→マタイ4:12~17 弟子たちの多くもガリラヤ出身。

[6-7]「ひとりのみどりごが、私たちのために生まれる。ひとりの男の子が、私たちに与えられる。主権はその肩にあり、その名は『不思議な助言者、力ある神、永遠の父、平和の君』と呼ばれる。その主権は増し加わり、その平和は限りなく、ダビデの王座について、その王国を治め、さばきと正義によってこれを堅く立て、これをささえる。今より、とこしえまで、万軍の主の熱心がこれを成し遂げる」

やみと死の陰の地から光へと預言は、ひとりの男の子の誕生を根拠にしてなされる。この子は「インマヌエル(神は私たちとともにおられる)」と名づけられ→イザヤ7:14,マタイ1:23、ここでその性質が明らかにされる。

①「みどりご」…赤ん坊。その子は男の子である。②「私たちのために生まれる」「私たちに与えられる」

…この子が生まれる目的と対象は「私たち」である。③「主権」…国を治める統治権。④「不思議な助言者」…主権者、王であるのに、その王座に座り込んでいないで人を助言し助ける。⑤「力ある神」…このみどりごは神ご自身である。⑥「永遠の父」…イスラエルの永遠の保護者。⑦「平和の君」…争いではなく、平和、平安をもたらされる。

このお方の主権は増し加わり、その働きによってあのダビデ、ソロモン時代以上の繁栄と平和が満たされる時が来る。なぜならこのお方は「ダビデの王座」、つまり王としての位につき「さばきと正義によって」その王国を堅くとこしえに統治するからである。このこ

とは人間の側の不可能を越えて、「万軍の主の熱心」によって成し遂げられる。これはまさにイエス・キリストによる神の国において実現することである。

そしてこのことは単に異邦人のガリラヤのみではなく、罪と悲惨の暗やみの中にいる全世界のすべての人々「私たち」が対象なのである。

ルカの福音書 2 章

[1-2] 「そのころ、全世界の住民登録をせよという勅令が、皇帝アウグストから出た。これは、クレニオがシリアの総督であったときの最初の住民登録であった。それで、人々はみな、登録のために、それぞれ自分の町に向かって行った」

- ①ローマ皇帝アウグストによる住民登録の勅令
- ②クレニオがシリアの総督であった時の最初の住民登録
- ③ヘロデ大王の治世にキリストはお生まれになった。→マタイ 2:1

ヘロデ大王の没年はBC 4年

これらを基に計算していくとBC 4～5年がイエス・キリストの誕生の時となる。

[4-7] 「ヨセフもガリラヤの町ナザレから、ユダヤのベツレヘムというダビデの町へ上って行った。彼は、ダビデの家系であり血筋でもあったので、身重になっているいいなずけの妻マリヤもいっしょに登録するためであった。ところが、彼らがそこにいる間に、マリヤは月が満ちて、男子の初子を産んだ。それで、布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである」

彼らは信仰をもって主のみことばに従った。→マタイ 1:18 以下、ルカ 1:26 以下
みことばに従順に従うか否かが、主に用いられるか否かの分かれ道になる。彼らの神のみことばへの従順を通して神の救いの計画が進んでいく。

[8-20] 「さて、この土地に、羊飼いたちが、野宿で夜番をしながら羊の群れを見守っていた。すると、主の使いが彼らのところに来て、主の栄光が回りを照らしたので、彼らはひどく恐れた。御使いは彼らに言った。『恐れることはありません。今、私はこの民全体のためのすばらしい喜びを知らせに来たのです。きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。あなたがたは、布にくるまって飼葉おけに寝ておられるみどりごを見つけます。これが、あなたがたのためのしるしです。』すると、たちまち、その御使いといっしょに、多くの天の軍勢が現れて、神を賛美して言った。『いと高き所に、栄光が、神にあるように。地の上に平和が、御心にかなう人々にあるように。』御使いたちが彼らを離れて天に帰ったとき、羊飼いたちは、互いに話し合った。『さあ、ベツレヘムに行って、主が私たちに知らせてくださったこの出来事を見て来よう。』そして急いで行って、マリヤとヨセフと飼葉おけに寝ておられるみどりごとを探し当てた。それを見たとき、羊飼いたちは、この幼子について告げられたことを知らせた。それを聞いた人たちはみな、羊飼いの話したことに驚いた。しかしマリヤは、これらのこ

とをすべて心に納めて、思いを巡らしていた。羊飼いたちは、見聞きしたことが、全部御使いの話のとおりだったので、神をあがめ、賛美しながら帰って行った」

身分の高い人々や富裕な人々、権力のある人々などではなく、当時の羊飼いのような社会の最底辺の見捨てられているような人々に一番最初に救い主誕生のすばらしい喜びの知らせが告げられた。これが神のみこころであった。羊飼いたちは多くの天の軍勢が現れて神を賛美するのを見た。

彼らは救い主誕生という喜びの知らせを聞いて、夜中であるのに捜しに行った。そして、ついにマリヤとヨセフと飼葉おけに寝ておられるみどりごとを捜し当てた。彼らは単に聞くだけで終わらせるようなことはしなかった。後にヘロデ王や王に仕える学者や祭司もこの救い主誕生の知らせを聞くことになるが、学者たちは行かず、ヘロデに至ってはこの救い主を殺そうと計った。→マタイ2章 これが神に逆らうこの世のやり方である。

この世は歓迎しなかったけれども、確かに神はこの世を愛し、罪の暗闇の中に座り込んでいる者たちを救うために御子イエスを送ってくださった。このイエスはユダヤだけでなく、全世界の救い主である。そして彼は私たちの罪の贖いのために十字架への道を進まれるのである。私たちもこのすばらしい救い主イエスを送ってくださった主なる神を羊飼いたちとともに喜び賛美し、感謝しよう。